

分岐点の「7%」

イタリア金利、危険水準

自力再建か、国際支援か

イタリアの国債がまた値下がりし、金利がついに7%台に突入した。借金の金利を支払うために財政再建が遅れ、また金利が上がる悪循環に陥るのか。ユーロ圏の大国イタリアは瀬戸際に追い込まれた。▼1面参照

イタリアの10年物国債の流通利回りは年6%台が続いていたが、9日、市場関係者が「節目」とみていたギリシャなどユーロ圏で財政危機に陥った国が、自力で財政再建するか、国際通貨基金（IMF）など外部

からの支援を検討する動きが出始めた。ギリシャは2010年4月以降7%を超え、翌5月にEUとIMFの支援が決まった。10年11月から7%超が定着したアイルランドは1カ月もたずに支援が決まった。11年2月から7%超が定着したポルトガルの支援が決まったのは、この年の5月だった。

た」とみている。ただ、イタリアはユーロ圏3位の経済大国で、支援することになれば巨額の資金が必要になるおそれがある。ユーロ圏各国は「欧州金融安定化基金（EFSF）」の資金規模を実質約1兆円（約106兆円）に増やすことを決めているが、イタリアは規模が大きすぎて、救済しきれない（中村氏）との見方もある。（大日向寛文）



の力を借りて財政を立て直すかの分かれ目とみられているからだ。ユーロ圏でIMFや欧州連合（EU）に支援をおおいたのはギリシャ、アイルランド、ポルトガルの3カ国。どの国も7%を超えてから支援を検討する動きが出始めた。ギリシャは2010年4月以降7%を超え、翌5月にEUとIMFの支援が決まった。10年11月から7%超が定着したアイルランドは1カ月もたずに支援が決まった。11年2月から7%超が定着したポルトガルの支援が決まったのは、この年の5月だった。

国債の流通利回りが上がるのに合わせて、新しく発行する国債の発行金利も上がる。また、国債は返済期限が来るたびに、新しい国債（借り換え債）を発行して返済資金を確保しており、金利が高い借り換え債に入れかわっていく。たとえば、イタリアの国債は10年秋までは4%前後で安定していた。これから金利が7%台にはね上がった国債に入れかわれば、毎年の政府予算の利払い費がふくらんでいく。たとえば、福祉などの予算を削っても利払い費増で全体の歳出が減らず、財政再建が進まなくなるおそれがある。

金利上昇を受け、格付け会社が「財政再建は困難」としてイタリア国債の格付けを下げる可能性もある。そうなれば、国債は信用が低下してさらに売り込まれ、金利がより上昇するという悪循環に陥る。

イタリア国債が7%を超えたことで、みずほ総合研究所の中村正嗣氏は「今後、金利が上昇する悪循環に入り、国際的な支援に追い込まれる可能性が高まっ